

令和4年度 英語科 授業改善推進プラン

大田区立東蒲中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・前年度に引き続き、リスニング力を高めるため、授業内で True or False や Q&A、また教員が積極的に授業で英語を使うことで定期的に「英語を聞く」機会を設けてきた結果、聞く力がついてきた。
- ・「書くこと」では、文法構造をプリントで導入し、言語活動やワークなどで学習を進めてきた。また、まとまりのある英文を書く機会を設けた。継続することで少しずつ書くことに慣れてきた。

(2) 課題

- ・生徒が英語を発する機会をさらに設けていく。
- ・対話文や長文読解などは、英検や入試を見据え、ポイントを絞って読み取れるように指導する。
- ・英作文は、個人差がある。無解答を少しでも減らすため、英作文のテンプレートを教えていく。
- ・語形、文法力をつけるため、日頃の学習における復習や導入の段階でおおむね身に付くような授業展開を計画的に実践する。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和4年度結果	令和3年度結果	令和2年度結果
第1学年	全体的に目標値を上回っている。特に聞くことについては△8.7と目標値を大きく上回った。	/	/
第2学年	概ね目標値を上回っているが、場面に応じて書く英作文や3文英作文など、表現する力が下回った。	全体的に区の平均は下回っているが、知識理解は全国を上回った。特に聞く力は全国平均を大きく上回った。一方で書く力は全国より少し下回った。 (第1学年時)	/
第3学年	目標値との比較においては、全体的に目標値と同等かそれ以上の正答率であった。目標値を大きく下回った分野は語形の変化に関する部分である。	目標値との比較ではおおむね上回っているが、区や全国平均との比較では全てにおいて下回った。特に大きな差が開いているのは英作文である。 (第2学年時)	実施なし (第1学年時)

(2) 分析 (観点別)

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
アルファベットの読み聞きの達成率は、目標値を上回っている。特に音声を聞いて、活字体の小文字を書く問題では目標値を△39.4 と大きく上回ったものもあった。 英文の読み聞きでは▽6.3 と下回った。	会話全体、日常会話の理解、英文の完成では目標値を上回った。小学校の思い出を発表する場面で、資料から自分の思い出に残っている行事を書き写す問題では▽19.8 と大きく下回った。	英文の完成、英作文問題において目標値を上回っている。しかし、英作文問題においては無回答率が 5.8% と全体を通して見ても高いことがわかる。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
語彙の知識理解は目標値を上回っているが、語形語法の知識・理解が下回った。 さまざまな英文の聞き取り約 6 ポイント上回った。他の問題もリスニングに関しては上回っている	さまざまな英文の読み取りや長文の読み取りは目標値を 3 ポイントから 6 ポイント上回った。 英作文に関しては、すべて下回り、特に場面に応じて書く英作文は 5 ポイントも下回った。	主体的に学習に取り組む態度は、目標値よりは上回った。リスニングはポイントが良いが、英作文問題はポイントが下回っている。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
リスニングにおいて、絵や図を見ながら答える問題の正答率が目標値を最大 10 ポイント下回った。 長文の読みとり(内容把握)、文法においては to 不定詞が目標値を下回る結果となった。 リスニングにおける、長文の要点や概要を捉える問題については、最大 10 ポイント上回ることができた。	この観点については、全体的に目標値と同等かそれ以上の正答率を出すことができた。 リスニングにおいて、質問に英語の文章で答える問題が目標を下回った。	英作文においては目標値と同等の結果となった。 リスニングは、問題の形式によって正答率に大きな差ができた。 英作文では、無解答が最大 40% であった。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
教科書の音読や、観点別テストを通して書いたり、聞いたりする力をつける。また、帯活動である基本本文のまとめを行うことで、文法の定着を図る。	ALT との会話や、ペアワークなどを通して思考力・判断力・表現力を養う。また、タブレットに向かって質問に英語で答える表現テストを定期的に行う。その際、機械的なやり取りにならないように留意する。	英作文問題の無回答率から、「何か少しでも書いてみる」という意識があまり感じられない。そのため、観点別テストや、定期考査を通して粘り強く問題に取り組む姿勢を養う。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
語彙の知識はあるが、語形変化や語順などについてあいまいな部分がある。基本本文を定着させ、それを使って英語で表現できる力を定着させたい。	書くことに関して苦手意識があるので、自分の言葉で英語を表現する力を身に付けることが課題である授業で少しでも書く場面を増やしていきたい。	学習内容が難しくなってきたており、一部に主体的に学習に取り組むのが億劫になっている生徒の意識改革が課題である。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
リスニングにおいては、絵や図を見ながら答える問題に慣れるため、教科書などを活用し類似形式のリスニングの機会を増やす。 文法事項については、授業の中で復習(振り返り)を交えながら基本本文の定着を目標に英文を書く機会をさらに増やす。	英語が頭に浮かんでいても、スペリングに自信がなく正答に結び付かない、あるいは答えが書けない(無解答)パターンがあるため、授業内、あるいは宿題等で書く機会を増やす。	リスニング問題に関しては、比較的答えようとする意欲が見られるが、英作文については、「書けない」を減らすべく、3文英作文を実施していたが、今後も継続する。テーマ(英文)を理解できないために作文できないというパターンもあるため、日頃の授業も大切にできる雰囲気を作る。